

解 答

□

問一 入場券しか持たなくても何とかなると思っている様子。

問二 礼子は経済的に大変で、アルバイトをしてでも東京の大学に行こうとしているため、経済的にも社会的にも恵まれた家庭に育ち、苦労知らずの芽衣は自分が子どもっぽく感じられたということ。

問三 久しぶりに親友の芽衣に会えて安心感を抱いたが、芽衣のしゃれたファッションや何の苦労もない暮らしを見てうらやましく感じずにはいられない自分自身のことをいやだと思った。しかし、将来は東京の大学に行き、必ず両親も自分も幸せになろうと決意の気持ちを強く持った。

問四 都会で暮らす生活をうらやましく思うこと。

問五 以前は親友としてお互い分かり合える仲であったが、両親が事業に失敗し長野に引っ越ししたというレイコの家庭の事情によって、二人の間にすれちがいが生まれ、わかり合えなくなってしまったと読み取れる。

□

問一 旅行をするときに、代理店の人などの専門家に聞かないで、自分で調べたインターネットの情報だけを頼りにして効率的な旅行ではなくなること。

問二 相手が「だと思います」という言い方をするとき、事実と違うことを言っていたり、自信がなかったり、責任回避のために言っていることがあります。確認しないと後で自分が損害を受けたり、もめたりする原因となるから。

問三 自分の目と耳でオリジナルの情報源にあたり、情報の真偽や質を確認するように常に心がけていればよいと述べている。

□

- (1) 割愛 (2) 群生 (3) 相乗 (4) 潮流 (5) 堤

解 説

一次・二次ともに物語文の量が多く、説明文と合わせて約8000字にも及びます。設問は漢字の書き取り5問以外は全て記述式で、記述字数が百字を超える問もあります。ほとんどの設問文で、その意図や条件が二点か三点示されていますから、それに沿って要領よくまとめるよう心がけます。

□ 物語文。出典は、早坂真紀『芽衣の青春』(約5100字)。

親友レイコが家庭の経済的な事情で、東京から長野に引っ越しして一年半。芽衣がレイコに長野まで会いに来ます。互いの変わらぬ友情を確かめたいという思いとは裏腹に、暮らしぶりのちがいが、二人の感性にもちがいを生んだことに気づかされます。

問一 「アッケラカン」とは、“なにが起きてても平然としているさま”です。「清里駅までの切符」がなくても「いいじやん。車掌が来たら買い足せば。私だって入場券しかないもん」というレイコの会話に注意しつつ、「平然として」「気にしない」「あまりこだわらない」などの「様子」を表す言葉を自分で考えましょう。

問二 ポイントは二点です。①「レイコが芽衣の手の届かないところにいるような気がする」とはどういうことか。②「レイコと芽衣のちがい」を含める。まず、①は、経済的には苦しいが、一生懸命に勉強して、アルバイトをしてでも東京の大学に行きたいと話すレイコを見て、「以前より数段おとなに」なったと芽衣は感じ、自らを「だらしない」「甘ったれでいるみたい」と恥じます。したがって、“レイコ=おとなびた”に対して“芽衣=こどもっぽいままで”だということが、芽衣がレイコに心理的な距離感を感じさせる点です。次に②。なぜ、こうした距離感が生じたか。「レイコの感性を変えた」ほどの「苦労」のある、軽井沢でのレイコの生活に対し、芽衣は「経済的にも社会的にも恵まれている」(2ページ)都會暮らしのままだからです。

問三 レイコの心情が吐露されている※部6～12行めに注目してまとめます。①芽衣を前にして「久しぶりにこころを許せる友だちといっしょにいる安心感を味わ」いながらも、②「何の苦労もしない芽衣」のことを「羨ましく感じ」てしまう。そんな自分に「自己嫌悪に陥」り、③「しっかり勉強」して「将来の計画をたて」、両親と自分を「絶対」に幸せにするんだ! と決意する。①②③のポイントを落とさず、まとめます。

問四 「隣の芝生は青い」とは、“他人のものは何でもよく見える”という意味のことわざです。レイコにとってはどういうことか、本文から適切な部分を探すと、すぐ前の「将来は絶対東京で暮らすのだ」とか「地方に住む人は都會に憧れ」るという部分が見当たります。この「(都會暮らしに)憧れる・羨ましく思う」などがキーワードです。

問五 記述のポイントは三点です。設問文で示された順番を少し変えて、①「以前の二人の関係」、②「その関係が変わったきっかけ」、③「二人の関係はどのように変化した」か、の順で書くといいでしよう。①ともに裕福な都會の家庭に育ち、「私にとって芽衣は、世界中でたったひとりのほんとうの友だちだし、こころの支えなの」、「私にはレイコちゃん以外に友だちなんていらないわ」と感じる、親友同士だった。②経済的な理由で軽井沢に転居した

レイコに対し、芽衣は依然として、都会で、「経済的にも社会的にも恵まれている」生活を送る。③ 転居後の生活の「苦労がレイコの感性を変えた」(←問二、三、四)に対し、相変わらずの芽衣。互いに、「芽衣は、ふと寂しさを感じた」、「やはりレイコから寂しげな表情は消えなかった」と、感性が違ってきた二人は、もう以前のように気持ちを共有することは難しいと察知したのです。

〔二〕 説明文。出典は、川井龍介『社会を生きるための教科書』(岩波ジュニア新書 約2900字)。

本文は四つの節に分けられており、大変読みやすい文章です。

<1> 現在は、インターネットで情報を得ることが簡単だが、それ自体が目的化する弊害がある。旅行する際も、調べはそこそこの余裕を持って旅程を組む方が効率的である。

<2> 自分のやり方だけに固執することなく、書物やインターネット上の情報だけでなく、その道の専門家に尋ねることが大事だ。

<3> 役所や病院、金融機関に問い合わせをする場合、うまくやり取りできないと、後でかえって手間になったり言い争いが起きたりする。それを避ける実際的なハつのポイントを挙げる。

<4> 後で困らないために、しっかりとした事実確認が必要だ。その基本は、人の言ったことを簡単に信用せず、「自分の目と耳で、できるだけオリジナルの情報源にあたること」だ。

問一 「策士策におぼれる」とは、“自分の策に頼りすぎてかえって自滅する”という意味の慣用表現。本文では、「自分のやり方に固執すると思わぬ落とし穴にはまる」と、その意味を説明しています。その具体例を<1>からまとめよという設問です。<1>の「たとえば」以降の、特に「旅行の計画でも～」の部分をまとめます。「代理店の人に任せた」しまえば「はるかに効率的」なのに、「情報を手に入れることが目的」であるかのように、自分で旅行の情報を集め始める(=「策」と「調べる事柄は増えることばかり」で、結局効率が悪い(=「策におぼれる」)事態に陥るのです。

問二 「とくに重要なのは～」以降の部分で、「大事な事実」を「詰める」こと、すなわち「しっかりとした事実確認」は、「自分が損害を受けること」や『『話がちがう』などともめる』のを避けるために大切なことだと述べられています。「また、『だと思います』と言われて～」の部分から、(5)に関する、「損害」や「もめる」具体的な原因を確認し、説明します。

問三 <4>で筆者が繰り返し述べているのは、「大事なことについて尋ねたら、聞いた情報の『裏を取る』」、「別の情報源にあたったりして、自分で確かめる」、「情報を発信しているところにあたって情報の真偽や質を確認する」、つまり、情報を鵜呑みにしない、ということです。さらに、その「基本は自分の目と耳で、できるだけオリジナルの情報源にあたる」ことだと述べています。